

2020年度関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

- 2020年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方を記述し、2021年度第1回学校関係者評価委員会に報告した。
- アンダーラインは新規の意見・課題

大項目	中項目	2020年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○第一の基本方針である、TPC*の育成と強化については、各学科の特性に応じたさまざまな取り組みが工夫されて行われており、学校全体として着実に成果を上げている。入学時オリエンテーションやマナー指導・実習・学校行事などの機会を活用した授業外の指導にさらなる工夫を求めたい。 * TPC…Think(考える力)、Positive(積極性)、Communication(対話力)。本校では「社会人としての総合力」がこの3つの要素から成ると捉えている。	継続	校長	■新型コロナウイルス感染拡大が続くなか、オンラインを併用したハイブリッド型の教育によるTPCの育成・強化について、学生目線でのアクティブラーニング的な学びの方法を取り入れた指導を、各学科において新たに工夫し、試みる。
1 教育理念・目的・育人材像	(2)育人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および、実習先病院訪問や医療従事者による特別講演、卒業生にご提供いただく情報とご意見を反映させ、専門分野の育人材育成を推進する。
			継続	医療マネジメント科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。
			継続	診療情報管理専攻科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。
			新規	医療事務IT科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。
			新規	診療情報管理科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。
			継続	くすり・調剤事務科	■定期的に関連企業、関連協会との打ち合わせ会を実施していく。 ■関連企業での薬店実習を共同で実施して、連携を強化していく。
			継続	介護福祉科	■知識と技術を実践の場で統合し、専門職としての態度や実践力を養うことができるよう関連業界や実習施設と連携していく。 ■「求められる介護福祉士像」を目指した教育と介護人材の輩出を図る。
			継続	看護科	■実習施設と実習協議会を開催し、多様な場で活躍できる看護師の育成に向けて看護教育の動向について情報共有しながら育人材育成を目指す。 ■コロナ禍における学内実習状況について、臨床現場と連携し課題を共有しながら取り組んでいく。
2 学校運営	1. 運営方針	○運営方針の周知の仕組みはしっかりとしている。常勤の教職員に対する浸透度の確認は工夫して進めている。兼任講師に向けた働きかけの工夫が引き続き求められる。	継続	校長	■兼任講師への働きかけに、オンラインツールの有効活用を引き続き推進する。
			継続	校長	■高校新卒者以外の再進学者・社会人・外国人留学生を対象とする職業人教育において、学生募集ルートの新たな開拓や学ぶ者の視点に立った支援策について、引き続き具体化を図る。

3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫するように引き続き努めてほしい。 ○社会に出て、すぐに使うことのできる知識や技術も大事であるが、物事を継続してやり抜く力や、押さえられても元に戻るることのできる力も身につけるために、専門学校での2・3年間で何が出来るかを引き続き考えてほしい。 ○必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉強に対する動機づけや気持ちの持続性があると思われるため、その仕組みの検討も引き続き行ってほしい。	継続	校長	■卒業後も職業人として自ら学びを継続していきけるよう、学生が興味を示す科目やカリキュラムを開発し、学びの楽しさを体験する機会をより多く提供する。そのために、各学科・部署が協力し、具体的な推進を図る。
			継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会におけるご意見を基に、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。またデジタルネイティブ世代である学生に向けた学習効果を高める教育方法を実践する。 ■専門知識・技能の習得とともに、早期からのキャリア教育・社会人化教育を推進する。
			継続	医療マネジメント科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。
			継続	診療情報管理専攻科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。
			新規	医療事務IT科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。
			新規	診療情報管理科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。
			継続	くすり・調剤事務科	■双方向の授業方式の導入により、時にはグループ分けして、テーマを決めて討議、発表などを通して課題解決能力などを身につける。 ■「応対の技術」などの授業内で、学んだ知識が、応対の演習を通して役立つことを理解することで、学ぶことの動機につなげていく。 ■「販売士」などの授業で、卒業後に役立つ、業務改善提案力や販売促進策（マーケティング）の提案力を身につける。
			継続	介護福祉科	■養成校、介護業界ともダイバーシティが進んでいる中、個々の状況を把握し支援する。 ■関連業界の動向を知り、情報収集と検証をしカリキュラムについて創意工夫をする。 ■本科生、職業訓練生、留学生と多様なクラスの中で、モチベーションの維持ができるよう支持する。 ■学生の興味、ニーズを把握し授業に反映する。
			継続	看護科	■新型コロナウイルス感染症禍の状況を見極めつつ、実習指導者の方に校内実習へのサポート協力を依頼し相互の学びにつなげていく。 ■学校と施設との情報共有を密にし継続教育の充実を図って行く。
			継続	医療秘書科	■自分の考えをアサーティブに伝えることの必要性を理解させ、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム等で自己表現力の向上を図る。 ■昨今、Webによる就職面接が広まっていることを鑑み、オンライン授業における発表形式の授業についても取り組む。
			継続	医療マネジメント科	■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。
			継続	診療情報管理専攻科	■管理士実習では、実習の成果をまとめて発表する機会が設けられており、病院側からのフィードバックを指導に活かしているが、継続して実施する。
			新規	医療事務IT科	■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。
			新規	診療情報管理科	■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。

	継続	くすり・調剤事務科	■「キャリアデザイン」、「OTCのマネジメント」などの科目内で、テーマを決めて、グループまたは個人で発表させている。継続して行い、就職活動及び就職後に役立てる。
	継続	介護福祉科	■授業ではテーマを決め発表の機会を多くしていく。 ■発表時は、学生の特性を把握し個々に合わせ段階的に進めていく。
	継続	看護科	■発表形式の授業を通じてプレゼンテーション力を高める工夫を継続していく。
○高校の現場でもアクティブ・ラーニングが進んでおり、今年度からそれに慣れた生徒が卒業する。今まで以上にアクティブ・ラーニングに注力していただきたい。	継続	医療秘書科	■対面授業とオンライン授業の双方において、講義形式の授業の中にも学生の主体的な学びの要素を取り入れ、課題を主体的に解決する力を養う。
	継続	医療マネジメント科	■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。
	継続	診療情報管理専攻科	■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。
	新規	医療事務IT科	■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。
	新規	診療情報管理科	■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。
	継続	くすり・調剤事務科	■授業後半に小テストを実施して、学習した内容を学生が確認しつつ、またその内容について双方向で討議することで、自分から積極的に学ぶ姿勢を身につけていく。
	継続	介護福祉科	■体験・調べ学習やグループディスカッション等を積極的に取り入れ、主体性や対話性を養えるようアクティブラーニングへの変換を目指す。
	継続	看護科	■オンライン授業、対面授業双方に活用できるような視聴教材の厳選を行い、教材でのイメージ化を図りながらディスカッションを深める工夫を推奨していく。
	○オンライン授業は教員側の作り方、機能の使い方によって、学生の参加意識が変わってくるため、工夫することが望まれる。 ○新型コロナウイルス感染症への対応については、変化に対して革新的に、スピード感をもって適応できている、評価したい。今後は質の部分上げて、より充実した教育になるようにしていただきたい。(2020年度総評)	新規	医療秘書科
新規		医療マネジメント科	■各教員が日々ブラッシュアップして、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。特に授業公開の仕組みを活用して、オンライン授業の参観を推進し、互いにその手法を教え合い共に向上していける態勢を構築する。
新規		診療情報管理専攻科	■各教員が日々ブラッシュアップして、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。特に授業公開の仕組みを活用して、オンライン授業の参観を推進し、互いにその手法を教え合い共に向上していける態勢を構築する。
新規		医療事務IT科	■各教員が日々ブラッシュアップして、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。特に授業公開の仕組みを活用して、オンライン授業の参観を推進し、互いにその手法を教え合い共に向上していける態勢を構築する。
新規		診療情報管理科	■各教員が日々ブラッシュアップして、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。特に授業公開の仕組みを活用して、オンライン授業の参観を推進し、互いにその手法を教え合い共に向上していける態勢を構築する。
新規		くすり・調剤事務科	■顔出し双方向オンライン授業を基本として、オンライン授業を積極的に実施しながら、対面授業と同じ又はそれ以上の効果をあげる方法を、今後とも検証、改善、実施をくり返ししながら、オンライン授業の質を上げていく。
新規		介護福祉科	■オンライン授業ではブレイクアウトルームを使ったグループワークを入れ、学生が主体的に学べるようにする。 ■対面授業と比較し質の低下、理解度の低下のないよう創意工夫した授業作りをしていく。 ■教員もオンライン授業に積極的に取り組み、毎回の授業後には検証し改善点があれば見直ししていく。 ■オンライン授業の見学、公開授業を見学し自己研鑽に努める。
新規		看護科	■オンライン授業の導入に向けて学生が不安なく導入できることを目指しオンライン授業の効果を講師と共に見極めつつ取り組んでいく。

		新規	教務委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業公開においてオンライン授業も公開の対象とし、各教員のオンライン授業におけるノウハウを共有することで、インストラクションスキルを底上げしていく。 ■ 教育研究において新型コロナウイルス感染症対策下での教育のあり方に関する原稿を募り、各教職員の対応を共有する。
○新型コロナウイルス感染症が学校運営に大きな影響を及ぼす中で、フレキシブルに対応したことを高く評価する。今回得たノウハウを、学生、教職員にとって有益な形で生かしていただきたい。(2020年度総評)		新規	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■ オンライン授業を円滑に実施するための校内インフラを引き続き整備するとともに、対面と併用したハイブリッド型授業の効果的な運営のノウハウを共有していきたい。
		新規	医療秘書科	※前に同じ
		新規	医療マネジメント科	※前に同じ
		新規	診療情報管理専攻科	※前に同じ
		新規	医療事務IT科	※前に同じ
		新規	診療情報管理科	※前に同じ
		新規	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス感染が深刻の状態下では、オンライン授業を週2～3日を基本として、クラスター発生を最小にする体制でのぞみながら、新型コロナウイルス感染の状況変化にあわせて、対面授業との比率を変えて、両者のバランスをとりながら授業を実施していく。
		新規	介護福祉科	※前に同じ
		新規	看護科	※前に同じ
		新規	総務課	<ul style="list-style-type: none"> ■ オンライン授業等が円滑に行えるための通信環境の整備を引き続き行っていく。
		新規	学務課	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルスの感染防止対策について、校内でより一層気を引き締め、自宅で検温、手洗い、アルコール消毒、教室内の換気などの徹底、そして昼食時の放送や巡回などを地道に取り組んでいく。
		新規	CSC	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2020年度は、キャリアサポートプログラムの内容にオンライン指導できる動画を取り入れたり、内定者や卒業生の報告会または関係者講演等を収録しオンライン配信してきた。今後もこの取り組みを進めていく。
		新規	広報室	<ul style="list-style-type: none"> ■ 来校型オープンキャンパスでは換気、ソーシャルディスタンス、机・備品の除菌、消毒液の設置、体温測定、マスク・フェイスシールドの着用、人数制限を設けるなど、安心・安全な開催を周知するとともに、並行して複数のオンライン型を実施し、参加者を分散させ感染リスクを抑えつつ、遠方の受験生などにも対応してきた。引き続きこれらに取り組んでいく。
		新規	教務委員会	※前に同じ
		新規	学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス感染症禍での生活に慣れると、感染症対策が不十分になってしまう。そうなる前に学生委員会メールを活用し注意喚起を行う。
	(2)教育課程について、外部の意見を反映しているか	○業界出身の兼任講師との打ち合わせ、卒業生や就職先との懇談などから得た情報をカリキュラムに生かす努力を引き続き行ってほしい。 ○カリキュラムの編成は、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会以外の、外部関係者の声も積極的に取り入れる仕組みを作ってほしい。	継続	医療秘書科
		新規	医療事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■ カリキュラム編成については、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会および、学内の他部署(企画室、広報室、学務課、CSC)とも意見交換を行い、入学対象者のニーズに即した内容になるよう取り組む。
		継続	医療マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■ カリキュラム編成に際しては、多種多様の立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。
		継続	診療情報管理専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■ カリキュラム編成に際しては、多種多様の立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。

		新規	医療事務IT科	<ul style="list-style-type: none"> ■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■カリキュラム編成に際しては、多種多様の立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。
		新規	診療情報管理科	<ul style="list-style-type: none"> ■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■カリキュラム編成に際しては、多種多様の立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。
		継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■定期的に業界、協会と打ち合わせを実施、年1回のホームカミングデーなどで卒業生からの意見収集を実施、業界出身の兼任講師と常に情報交換を実施して、求められているカリキュラム情報を入手しながら、導入を検討していく。
		継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■業界出身講師や卒業生の協力を得て、カリキュラムに反映していく。 ■関連企業による特別授業を継続していく。 ■カリキュラム編成には、教育課程編成委員会のみではなく、外部関係者、実習施設指導者等の意見も聴取し検討していく。
		継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■卒業生や業界出身の兼任講師、関連医療機関との情報共有は密に行い、技術項目などは残すべき内容と変えるべき内容の検討を常に行っていく。
		継続	CSC	<ul style="list-style-type: none"> ■実習や就職実績のある病院への訪問や就職模擬面接会での聞き取り結果を、キャリアサポートプログラムの日程や内容に生かすよう取り組んでいる。また卒業生の声も卒業生キャリア報告会や日頃の学校への訪問したものへのアンケートを通じての聞き取りを行い、意見を聞いている。これらを引き続き行っていく。
(4)授業評価を実施しているか	○アンケート結果をより有効に活用するため、定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■2023年度の定期改定に向け、意見がある場合には聴取する。至急の修正が必要と判断される場合は対応を自己点検・自己評価委員会で検討する。
4.資格・免許の取得の指導体制	○国家試験を受験する学科においては、受験資格の要件を明確に説明して指導を行っている。引き続き試験問題の傾向に合わせた指導に期待している。	継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、国家試験についての説明会、国家試験対策講座を実施していく。 ■1年次より模擬試験を受験し個別にデータ化し指導に役立てていく。2年次の介護福祉ゼミでは領域別指導を継続していく。
		継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■看護師養成所の卒業判定をもって、国家試験受験資格が得られることを入学時オリエンテーションで説明する。 ■卒業要件としての単位修得に関わる内容は学生ガイドに記載し、学年が進むごと、また、単位に絡む状況発生時に随時学生及び保護者に説明し保護者と連携しながら取り組んでいく。 ■国家試験対策としては、1年次、2年次は低学年の模擬試験を実施。3年次には少人数のサポート体制をとって指導を行う。新型コロナウイルス感染症禍における新たな国家試験対策を検討していく。
5.教員・教員組織 (2)教員の資質向上への取組	○授業公開は、兼任講師の参加について、さらなる拡大を期待している。 ○新型コロナウイルス感染症禍の中で、オンラインと対面のハイブリッド型で授業を進めていくと思われるが、オンラインを使った授業をいかに工夫するかが大事なポイントである。その工夫を授業公開等で共有し、学校全体が一つになっていくことに期待したい。	継続	教務委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■2021年度の授業公開は通年において実施し、対面授業のほか、オンライン授業も公開の対象としている。より多くの兼任教員に参加いただくよう適宜参加を促していく。
		新規	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■オンライン授業を含む、授業公開の期間を通年に拡大した。そのなかで、効果的な授業運営の方法や工夫を、教員間で共有していきたい。
		新規	教務委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■授業公開においてオンライン授業も公開の対象とし、各教員のオンライン授業におけるノウハウを共有することで、インストラクションスキルを底上げしていく。
5.教員・教員組織 (3)教員の組織体制の整備	○専任教員と兼任講師の連携においては、オンラインも活用することを検討してほしい。	新規	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■4月の年度初めの全教員会・科会について、新たにオンラインでの開催を試みることにした。
		新規	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■専任教員と兼任講師の連携については、学科会議をはじめ、打ち合わせにおいてもオンラインを積極的に活用していく。 ■学生への課題提示やオンデマンド教材の配信についても、専任教員と兼任講師とで連携し、学生にとって利用しやすい環境整備に取り組む。

			新規	医療 マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。従前のとおり毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。
			新規	診療情報管理 専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。従前のとおり毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。
			新規	医療事務IT 科	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。従前のとおり毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。
			新規	診療情報管理 理科	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。従前のとおり毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。
			新規	くすり・ 調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■専任教員と兼任講師の間ではGメールを利用して、逐次情報を発信したり、情報交換を実施したりしている。オンラインの活用を今後より広げていく。
			新規	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科教員会はオンラインで実施した。今後も、オンラインやGメール、ドライブを活用し兼任講師とも情報の共有を図る。
			新規	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。初回講義の際に担任が学年の状況を伝えること、授業期間中に学生から講師への要望・講師の授業時における学生の様子などを情報共有することを継続する。 ■オンライン授業対応可能な講師の把握を行い、来校・自宅配信など柔軟に対応して取り組んでいく。
4 学修成果	2. 資格、免許 の取得率	○資格・検定取得は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■昨年度は上半期中止となった検定もあったが、資格・検定の取得においては全般に良好な結果が出た。オンラインも活用して、引き続き各学科で着実に取り組みを進め、成果に結びつけたい。
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、一部科目については進度別クラス編成を継続する。また2年次後期の検定にも挑戦できる科目配置にしているため、検定上位級と医師事務作業補助者の受験者数を増やし、伸び残のない指導に努める。
			継続	医療 マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。
			継続	診療情報管理 専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■診療情報管理士試験合格率を高めるための対策を強化する。また、併せてがん登録実務初級者認定試験、医療情報技師能力検定試験の取得率増加を目指し、必要な対策を実施する。
			新規	医療事務IT 科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。
			新規	診療情報管理 理科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。
			継続	くすり・ 調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■資格・検定合格に重要な科目については、学生の苦手な部分、わかりにくい部分を補助的に教える科目をつくり、違う角度から説明していく。さらに演習問題を解くことにより、よく理解していない箇所をなくしながら、学生の苦手意識を払しょくして、より自信を深めることで資格・検定の合格率向上に役に立てていく。
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■在学中の国家試験合格を目指し指導していく。 ■個別指導をし弱点強化を図る。 ■介護事務管理士技能認定試験（任意）へのチャレンジを促す。 ■レクリエーション介護士2級の全員取得を目指す。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■国家試験合格率の全国平均以上を維持するため、教員間の連携を図り取り組んでいく。 ■定期的に担任会議を開催し、1年次からの取り組みで強化、工夫すべきところをまとめ、学科教員会議で専任教員への周知を図る。

3. 卒業生の社会的評価		○職業実践教育の効果については、様々な機会を捉えて意見聴取やアンケートを行っているが、卒業生や就職先等の評価を確認するための学校全体としての調査方法を引き続き検討し、実践することが望まれる。特に、卒業後3年目ぐらいまでの動向を継続的に調査する方法を考えてほしい。	継続	校長	■校友会事務局とも連携し、まず各学科・CSCが中心となって必要なデータ収集の方法を確立しようと試みているところだが、その結果を分析するプロセスについても引き続き検討を進めたい。
			継続	CSC	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っていく。 ■またGメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を進める。
		○卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問、面談をはじめ、Gメール等による調査も進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。	継続	CSC	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っていく。 ■今後調査方法の検討やGメールの卒業後の使用方法についても周知していく。
5 学生支援	1. 就職等進路	○学生の多くは、学校求人により就職活動を行っていることから、引き続き学生の希望に基づく求人先の確保・開拓に努めてほしい。 ○進路指導協議会を通じて、各学科とキャリアサポートセンターの連携を推進し、社会状況の変化に迅速に対応した学生への就職指導・活動支援を引き続き進めてほしい。 ○キャリアサポートセンター担当職員の対応力は学生の就職指導・活動支援に直接かかわるものであることから、引き続き担当職員のスキルアップを進めてほしい。	継続	CSC	■2020年度、特に医事系において大規模病院への採用が増えた。2020年度の実績ある病院と連携し、2021年度への採用へ繋げていく。 ■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に行っている。今年度も引き続き、積極的な参加を促していきたい。
		○新型コロナウイルス感染症による社会状況の変化により、企業等ではウェブ面接の導入が進み、メリットも感じている。対面の面接とは伝え方や感じ方が異なるため、授業等において指導を取り入れてほしい。	新規	CSC	■ウェブ面接については、授業では注意点や実施にあたってのポイントを指導していく他、個別にも希望者に対し実際にウェブの模擬面接を行い指導していく。
	2. 中途退学への対応	○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。 ○表れた兆候への早めの対応、指導が大切であることから、事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫も進めてほしい。 ○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	校長	■再編した医療事務分野の学科間においては、学びのミスマッチによる退学を防止する対策の一つとして、2年次への進級に際し、相互に転科が可能な仕組みを作った。「退学防止調査票」「退学届・学籍異動の記録」を活用した事例研究、担任との退学防止の意見交換会は、引き続き学生委員会を中心に実施し、防ぐことができる退学については、早めの対応で極力防ぐ対策を一層強化していく。
		○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。	継続	学生委員会	■退学の兆候がある学生を早期に把握することが目的の退学防止調査票を作成し2017年度から実施しており、2021年度も継続して実施する。各担任に前期に2回、後期に2回、中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等をまとめてもらい、学生委員会が確認する。把握した退学の兆候を学科長にフィードバックし、各学科で退学を防ぐ方法を検討することにつなげる。
		○AO入試による入学予定者への入学前指導プログラムの効果に引き続き期待している。	継続	校長	■昨年度末の3月に実施を予定していた入学前オリエンテーションは、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、やむなく2年続けての中止となったが、対象となる入学予定者の範囲をさらに拡大し、今年度も実施を図りたい。
		継続	医療秘書科	■2021年度入学生への入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。2022年度生に対しては、実施の方向で準備を進めていく。	
		新規	医療事務科	■医療事務科の入学生を入学前指導プログラム対象者とするかどうかを、関連部署と検討する。	
		継続	医療マネジメント科	※募集停止により該当しない。	
		新規	医療事務IT科	■2021年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。2022年度入学生に対しての同プログラムは実施を想定し、必要な準備を進める。	

		新規	診療情報管理科	■2021年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。2023年度入学生に対しての同プログラムは実施を想定し、必要な準備を進める。
		継続	くすり・調剤事務科	■新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、この2年間は中止となった。今後、開催される場合は、学科としても積極的に参加して、その効果を検証していく。
		継続	介護福祉科	■2021年度生入学前指導プログラムは新型コロナ感染症拡大防止により中止になった。2022年度生入学前指導プログラムは介護への導入に繋がるよう準備を進めていく。
		継続	看護科	■新型コロナウイルス感染防止のため2020・21年度入学生へのプログラムは中止となった。2022年度生に対しては実施の方向で準備を進めていく。
	○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいて、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを引き続き工夫してほしい。	継続	広報室	■次年度も引き続き、オープンキャンパスでの個別相談等を通じて十分な説明を心がけ、ミスマッチのない学校選択に結びつけていく。
		継続	医療秘書科	■オープンキャンパスにおいては本校他学科についても理解していただいたうえで、自分の意思で入学を希望していただけるよう、引き続き努める。
		新規	医療事務科	■オープンキャンパスにおいては本校他学科についても理解していただいたうえで、自分の意思で入学を希望していただけるよう、引き続き努める。
		継続	医療マネジメント科	※募集停止により該当しない。
		継続	診療情報管理専攻科	※募集停止により該当しない。
		新規	医療事務IT科	■退学者ゼロは現実的には難しい。オープンキャンパスでは学科の特性を十分に説明し、理解してもらったうえで自身の意思で入学していただくよう尽力する。
		新規	診療情報管理科	■退学者ゼロは現実的には難しい。オープンキャンパスでは学科の特性を十分に説明し、理解してもらったうえで自身の意思で入学していただくよう尽力する。
		継続	くすり・調剤事務科	■オープンキャンパスに参加した学生には、2回以上の参加や授業見学、他の学校、他の学科への見学などを勧めて、ミスマッチがないようにアドバイスをしていく。
		継続	介護福祉科	■複数回のオープンキャンパスへの参加を促し、学科の特性を理解していただきミスマッチを防ぐ。 ■オープンキャンパス後の懇談会では教員が積極的に話しかけ誘導する。
		継続	看護科	■オープンキャンパスの時期、内容については随時「入試委員会看護科部会」にて話し合い、決定事項を学科内におろして協力を求めた。2022年度生に向けても、限られた条件下で伝えていく必要がある。広報と協力のもと内容の検討を図っていく。
6. 卒業生・社会人	○卒業後の相談とフォロー体制の充実、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。 ○キャリアアップを目指した転職への支援を行っていることを知らない卒業生も多いと思われるので、そのような情報も提供して、随時、学校に相談できるような受け皿を広げてほしい。 ○Gメール等を活用した、(卒業生の状況が把握できるような)ネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。	継続	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。2021年度は、より積極的に既卒者へのアプローチを行っていきたい。 ■ホームページを通じた卒業生への就職支援にも力を入れ、卒業生がより分かり易いものへ改善していききたい。 ■2020年度、Gメールを通じての転職相談等も受付けており、実際にあっせんも行ってきた。2021年度は、より効率的にGメールを活用し、転職者への相談やあっせんを行っていききたい。
	Gメールを使用した卒業生の動向調査は年度末に1回だけでは回答しづらいと思われる。卒業生の声をシラバスに生かすことも大切なので、質問事項を整理して、もう少しこまめに配信することを検討していただきたい。また、CSCからの配信だけでなく、担任からも行うことを検討していただきたい。	継続	医療秘書科	■卒業生の動向調査は懸案事項の一つであり、卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際にはヒアリングシートを利用した動向調査をしている。これを継続していくとともに、CSCや校友会との連携を図っていく。

			継続	医療 マネジメント科	■現状では、担任教員は在校生への対応を優先せざるを得ず、卒業生へのメール発信は負担が大きく難しい。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。
			継続	診療情報管理 専攻科	■現状では、担任教員は在校生への対応を優先せざるを得ず、卒業生へのメール発信は負担が大きく難しい。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。
			新規	医療事務IT 科	■現状では、担任教員は在校生への対応を優先せざるを得ず、卒業生へのメール発信は負担が大きく難しい。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。
			新規	診療情報管理 科	■現状では、担任教員は在校生への対応を優先せざるを得ず、卒業生へのメール発信は負担が大きく難しい。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。
			継続	くすり・ 調剤事務科	■卒業年度の学生については、ホームカミングデーを開催して状況を収集する。それ以前の卒業生については、学科内で開催している企業説明会の際、その企業に入社した卒業生の状況を企業からヒアリングする。卒業生が企業説明会に同席しているケースもあり、その場合、企業からのヒアリングだけでなく、直接状況を収集する。
			継続	介護福祉科	■卒業生への動向調査は現状厳しい。来校時や卒業生懇談会が主な情報交換になっているため、意見を聴取しシラバスや授業、実習に生かしていく。 ■卒業生の情報はCSCと共有していく。
			継続	看護科	■CSCと連携して、主な就職先の卒業生から、職場状況など現場で働く生の声を在校生に伝えもらう機会を設けている。今年度も引き続き実施して、その際に卒業生の動向を調査する。 ■ホームカミングデーはオンラインで実施し、状況把握を継続する。更に在校生にも参加を促し卒業生の声を伝えていく。
			継続	CSC	■2020年3月卒業生に対し、2020年度4月5月において感染症の影響から、勤務形態が不安定な卒業生も出ているとみられ、Gメールによる調査を行った。今後においても卒業生の来校時やGメールを活用した調査を行っていく。
		○卒業生支援講座については、卒業生のニーズを把握し、内容の充実・強化に努めてほしい。	継続	校長	■卒業生支援講座については、卒業生の学びのニーズを把握して社会人(既卒者)対象の学び直し教育につなげるためのプレ講座と位置づけ、引き続き、講座企画の具体化と受講者へのサービス向上を図りたい。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度の開催は未定だが、オンラインでの開催の可能性も検討したい。
			継続	CSC	■卒業生支援講座の企画についても卒業生と接する機会を通じニーズの把握に努める。 ■運営の仕方も改善の余地があり、学校全体として見直していきたい。
			継続	校友会 事務局	■卒業生全体からのニーズの把握には多くの費用と時間がかかるため、教職員等からのアドバイスや過去の実績をもとに検討する。
6 教育環境	1. 施設・設備 等	○教育に積極的に生かす必要性からの学校内のWi-Fi(無線ネットワーク)設備、また、必要に応じたバリアフリーなどの検討が引き続きの課題である。	継続	学務課長	■次年度入学者より1人1台PCを所有し、授業で使用させることを検討しているため、授業の進行を妨げないように、総務課と連携を取りながらWi-Fiの整備を行う。 ■バリアフリーについては、教職員の意見を聞いた上で優先順位を考えながら検討していく。
	2.学外実習、イ ンターンシップ 等	○インターンシップ専攻生のフォロー体制の強化のため、関係者による情報共有と一層の連携が引き続き望まれる。	継続	CSC	■2020年度は各学科と連携し、インターンシップ専攻生のフォロー体制の充実に努め、インターンシップの中止を2019年度に続き無くすことができた。2021年度は、その体制を踏襲したい。
			継続	医療秘書科	■インターンシップ専攻生へのフォロー体制はCSCおよび医事系学科で引き続き、連携体制を継続していく。
			継続	医療マネジ メント科	■インターンシップ専攻生へのフォロー体制の仕組みは既に構築されている。今後も継続して支援を実施する。
	(2)学内におけ る安全管理体 制を整備し、適 切に運用してい るか	○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどについては、引き続き所轄からの流行情報を的確、適切に発信して、周知、徹底を図ることが望まれる。	継続	学務課長	■インフルエンザなどの流行情報を把握し、現在の感染防止対策の取り組みを見直すことを検討する。 ■新型コロナウイルスの感染防止対策と同様に、マスク着用、手洗い、アルコール消毒について、学生・講師・教職員全員に周知して徹底する。 ■流行情報の把握や保健室職員との連携により、学生や教職員に情報提供を行いながら感染防止を図る。

7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○高校における専門学校の理解や認識が必ずしも進んでいない。学科ごとに、仕事内容、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供をもっと工夫してほしい。	継続	広報室	<ul style="list-style-type: none"> ■高校訪問を1都3県の重点校を中心に行い、高校教員へ本校の特徴を理解してもらったうえで信頼関係の構築をはかっていく。 ■昨年度の募集活動を検証しつつ、2022年度生募集活動計画を作成するなかで、アピールすべき情報を精査し本校のストロングポイントである就職の強さと業界とのつながりの厚さを訴求していくよう心掛ける。
		○新型コロナウイルス感染症禍でも遅れることなく、しっかりと教育ができていることを、募集においても強みとして生かしていただきたい。(2020年度総評)	新規	広報室	<ul style="list-style-type: none"> ■本校の「新型コロナウイルス感染症の対応方針」や「授業開始に向けたルール」に基づき、安全に対面授業を中心とした授業運営していることをアピールする。
		○オンラインは物理的な距離がなくなるため、今まで検討してきた社会人を対象とした教育も行いやすくなる可能性がある。募集に繋げることを期待したい。(2020年度総評)	新規	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■社会人・再進学者に向けた1年制学科でのオンラインを有効活用した授業運営やオンラインによる新たな職業人教育プログラムの開発を検討したい。
			新規	広報室	<ul style="list-style-type: none"> ■各学科の授業運営方針に基づきアピールしていく。
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	<ul style="list-style-type: none"> ■学生生活ガイドへの記載等により、入学時からの注意喚起を継続していく。また、本年度より「個人情報取扱いに関する同意書」の提出を求め、本校の姿勢を明確に示した。 ■新型コロナウイルス感染症、退学者に関する情報の管理について担当部署を中心に検討し、徹底した対応を図る。
			継続	学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■2017年度より学生生活ガイドに「個人情報の取り扱いに気をつけましょう」という注意喚起文書を掲載し、オリエンテーションの際に担任から案内をしている。 ■学生委員会メールを活用し、SNS利用に関する注意喚起を行う。
10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	○学業が忙しい中で、ボランティア活動の奨励、支援には難しさはあるが、人材育成の視点からも有意義なものであり、さらに仕掛けを工夫して、引き続き進めてほしい。 ○東京都専修学校各種学校協会のホームページへの情報掲載を引き続き行ってほしい。	継続	学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■2013年度からボランティアの登録制度を実施し、ボランティア活動を実施することを奨励しており、継続して実施する。募集の案内がある度に学生委員会メールを活用し、全学生に案内をしていたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症への感染を危惧してボランティア募集掲示板への掲示のみとした。本年度も同様とする。 ■これまでと同様に、学生生活ガイドにボランティア活動をするまでの方法について掲載し、案内する。 ■ボランティア活動の窓口を設置し、組織的な支援体制を整えている。報告があったボランティア活動については、結果を学科長会議内で共有し、活動履歴を、掲示板を利用して学生に報告する。 ■東京都専修学校各種学校協会のホームページへの情報掲載は継続しており、活動の実績があった場合、情報を更新する。